

# 無駄を省き、限られた予算を最大限生かす議論を



南島原市議会議長  
梶原 重利

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日ごろは、市議会に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私は、昨年5月の議長就任以来、その責任の重大さを痛感すると共に、南島原市のより一層の発展のため、誠心誠意努めてまいりたいと決意を新たにしております。

年越しや正月が一大行事であった私の子どもころとは違い、今や、それらも日常生活の中のひとつまじりつてありますが、「初日の出」に一陽来復を期待し、新春を寿ぐと、心が洗われるようで、

身の引き締まる思いがします。

毎日を忙しく過ごす中で、私たちはともすれば目先のことにとらわれがちですが、今一度、この区切りの時に、じっくり自分というものを振り返り、周囲の状況にも目を配りながら、新年に「思い」を新たにすることも、意義深いことではないでしょうか。

さて、早いもので合併して5回目の新春を迎えますが、これまで築き上げられた各地域の特性を最大限に活かしながら、南島原市として一体感の醸成ができてくつあると実感しています。

その間には、島原半島ジオパークが、世界ジオパークネットワーク加盟の認定を受けるといふ、うれしいニュースもありました。また、昨年4月には、認定証の授与式が行なわれ、私たちの「身近な自然」が、世界に認められた記念すべき年になりました。

一方、国の方では、昨年、行政刷新会議の事業仕分けが国民の注目を集めました。国の事業について、必要性があるか、国がやるべき仕事なのかなどチェックする作業ですが、さまざまな方面に物議を醸したようです。

合併以降、南島原市でも、「財政健全化」の掛け声のもと、さまざまな行財政の改革が進められています。しかしながら、そのような苦しい財政状況の中にあっても、削減されるべきもの、残さなければならぬもの、その見極めが大切だと思います。

市政においても、無駄を省き、限られた予算を最大限有効に活かすため、市議会場で議論を尽くし、将来の南島原市のあるべき姿をしっかりと見定めて、先人から受け継いできた、この「ふるさと」を守り、さらに充実発展させていくことが重要だと考えています。「改革」という言葉が独り歩きしないよう、市民の

声に真剣に耳を傾け、舵取りを誤らないよう、市当局の動きをしっかりと注視してまいります。

本市の市議会は昨年4月の改選により定員を6人削減し、24人の議員でスタートしました。今、地方分権が進む中で、地方の自治体意思決定機関である議会が、ますます大きな責務を担ってくると考えています。

今後とも、議会運営にあたっては、皆さま方のご意見、ご要望を拝聴し、「市民の皆さまが、快適に住み、働き、憩うことのできる南島原市」の実現を目指し、議員一同、力を合わせ、議会の機能を十分に発揮できるように、さらなる努力をしていく所存です。

どうか、市民の皆さまにおかれましては、今まで以上に温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、新しい年が皆さまにとって、ご健勝で、実り多い年でありますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

「長崎がんなばらんば国体」が開催されますが、昨年は、内村航平選手の世界体操競技大会での日本勢初の個人総合2連覇や、大久保嘉人選手のサッカーワールドカップのベスト16進出などの快挙がありました。あらためてこれらの栄誉を讃えらるとともに、スポーツに励む県内の子どもたちにも大きな夢と希望を与えてくれたと思っています。

私は、県政の主役は、県民の皆さまと考えています。これからの可能な限り現場に向き、皆さまから直接ご意見をお聞きしながら県政を進めてまいります。そして、子どもたちが将来ここに生まれ育って良かったと思えるように、夢と希望に満ちた長崎県づくりに取り組んでまいります。

結びに、本年が、南島原市の皆さまにとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

それから、来る平成26年に

効果が一過性に終わらないよ

# 活力に溢れ、生きがいを持って暮らせる郷土づくりを目指して



長崎県知事  
中村 法道

新年明けましておめでとうございます。

南島原市の皆さまには、おすこやかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。私も、知事に就任して初めての正月を迎え、県民の皆さまと

共に、長崎県を活力に溢れ、生きがいを持って暮らせる郷土にしていきたいという思いで、県政の推進に全力を挙げて取り組んでいく決意を新たにしたいところです。

今年、これからの県政運営の指針となる新しい総合計画のスタートの年です。「人が輝く、産業が輝く、地域が輝く長崎県づくり」を基本理念として、人を大切にする県政の推進を基軸に据え、本県の産業や地域を担う人づくり、

一人ひとりをきめ細かく支える施策の充実、さまざまな産業の活性化と雇用の場の創出、住民の創意と工夫を活かした地域づくりなどに、県民の皆さまと力を合わせて取り組んでまいります。

県政の主要事業である「九州新幹線西九州ルート」は、現在、武雄温泉～諫早間の工事が順調に進められているところと、残る諫早～長崎間については1日も早く着工認可を受け、平成30年4月を目標に武雄温泉～長崎間をフル規格で一括開業し、新幹線効果を県内各地が享受できるように、引き続き全力で取り組んでまいります。

また、昨年は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の舞台が長崎となったこともあり、全国から龍馬ファンをはじめ多くの皆さまにご来県いただきました。今年、この「龍馬伝」

さらに、県民の皆さまが抱えているさまざまな思いや痛みに敏感に対応した医療・福祉・子育て支援等の施策は非常に大切であると考えています。中でも、乳幼児医療費助成の現物給付については、今年4月から、ほとんどの市町において実施される予定です。

これにより、子育て家庭の負担が軽減され、安心して医療を受けることができるようになります。

それから、来る平成26年に

効果が一過性に終わらないよ

効果が一過性に終わらないよ

効果が一過性に終わらないよ

効果が一過性に終わらないよ

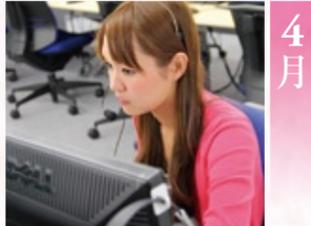
## 南島原市の2010年は、こんな年でした



市川森一作「幻日-原城攻防絵図-」長崎新聞で連載開始(写真は夢一夜城)



南島原市加津佐町出身の佐田の富士関が、十両昇進



市の誘致企業、日本トータルテレマーケティング株式会社が深江町に開業



藤原市長就任。市議会議員は6人減の24人体制で始動



全日本小学生ソフトボール大会が南島原市で開催。有家少年SBCが、ベスト8入り



南島原植樹(詳細6ページ)。南有馬町上原に水源の森が誕生



福祉タクシー券、ヒブワクチン、子宮頸がんなどの事業が次々と実現